

エゾノコリンゴ	<i>Malus baccata</i> (L.) Borkh. var. <i>mandshurica</i> (Maxim.) C.K.Schneid.	絶滅危惧Ⅱ類
		バラ科
選定理由	県内では産地が限られる稀な植物で、一箇所の生育地での消滅が県内個体の絶滅に直結するため。	写真(高橋弘)
形態の特徴	落葉高木。冬芽内で葉が巻かれている。葉身は楕円形-長楕円形-広卵形、分裂せず、基部はくさび形-鈍形、小鋸歯縁。展葉時の5-6月、短枝に径3-4cmの5-10花を束生。花筒は筒形。萼片5、披針状長楕円形。花弁5、蕾で淡紅色-赤色、開花後白色。雄蕊約20。花柱(3-)4-5、基部で合生。果実は秋に深紅熟、径約1cm、萼片は宿存しない。	
生態的特徴	中部以東の山地帯から亜高山帯の樹林内や林縁に生える。類似種のズミが湿った場所に多いのに対し、主に適潤地に生える。	
分布状況	南千島、北海道、本州北部・中部。ウスリー、サハリン、千島、朝鮮、中国。飛騨山地や御岳周辺の山地に稀に分布。	
減少要因	山林管理の停滞に起因する樹林化、林冠の鬱閉化のため生じる日照不足からの生育不良。	
保全対策	山林管理の促進による低～中茎草地の維持。	
特記事項	ズミ <i>Malus toringo</i> (Siebold) Siebold ex de Vrieseよりやや大形だが、よく似ており、長枝でも葉が三裂しないこと、冬芽内で葉が巻いている(ズミは葉が折り畳まれている)以外での区別は困難。丘陵地やブナ帯には分布しない。なお、本種のことをオオズミと呼ぶ場合もあるが、ズミの大型系統やオオウラジロノキ <i>Malus tschonoskii</i> (Maxim.) C.K.Schneid をオオズミと呼ぶ場合もある。	
参考文献	Flora of Japan. Volume II b. Angiospermae Dicotyledoneae Archichlamydeae(b). 2001. KODANSHA. Edited by Kunio Iwatsuki David E. Buufford and Hideaki Ohba. Rosaceae 15. <i>Malus</i> Mill.. H. Iketani and H. Ohashi	

文責: 高野裕行